

JIS

工場排水試験方法 (追補 1)

JIS K 0102 : 2019

JIS K 0102:2016 は平成 31 年 3 月 20 日付で改正されました。
この追補は、改正内容が記載されていますが、**JIS K 0102:2016** を併読して用いて下さい。

平成 31 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

追補 1 のまえがき

この **JIS K 0102** の追補 1 は、工業標準化法に基づき、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が **JIS K 0102:2016** を改正した内容だけを示すものである。

JIS K 0102:2016 は、この追補 1 の内容の改正がされ、**JIS K 0102:2019** となる。

日本工業標準調査会標準第一部会 化学・環境技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	千葉 光 一	関西学院大学
(委員)	大石 美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	大野 香 代	一般社団法人産業環境管理協会
	小川 修	一般社団法人日本塗料工業会
	倉品 秀 夫	公益社団法人自動車技術会
	斉藤 良	日本プラスチック工業連盟
	四角目 和 広	一般財団法人化学物質評価研究機構
	中川 勝 博	一般社団法人日本分析機器工業会
	中島 眞 理	一般社団法人日本ゴム工業会
	中村 優	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
	野中 玲 子	一般社団法人日本化学工業協会
	野々瀬 菜穂子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	保倉 明 子	東京電機大学
	松永 直 樹	拓殖大学
	三浦 安 史	石油連盟
	森川 淳 子	東京工業大学
	山崎 初 美	主婦連合会
	山田 美佐子	一般財団法人日本消費者協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 39.2.1 改正：平成 31.3.20

官 報 公 示：平成 31.3.20

原案作成協力者：一般社団法人産業環境管理協会

(〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-2-1 三井住友銀行神田駅前ビル TEL 03-5209-7707)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

審議専門委員会：化学・環境技術専門委員会 (委員長 千葉 光一)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成協力者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1 E-mail:jisc@meti.go.jp 又は FAX 03-3580-8625) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

工場排水試験方法

正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	28.1.3 第2段落	試験操作などは、JIS K 0170-5 による。ただし、JIS K 0170-5 の 6.3.2 (4-アミノアンチピリン発色 FIA 法) は 28.1.1 の前処理 (蒸留法) 後の留出液に適用し、6.3.4 (くえん酸蒸留・4-アミノアンチピリン発色 CFA 法) の方法は除く。	試験操作などは、JIS K 0170-5 による。ただし、JIS K 0170-5 の 6.3.2 (4-アミノアンチピリン発色 FIA 法) は 28.1.1 の前処理 (蒸留法) 後の留出液に適用し、6.3.4 (くえん酸蒸留・4-アミノアンチピリン発色 CFA 法) 及び 6.3.5 (りん酸蒸留・4-アミノアンチピリン発色 CFA/FIA 法) の方法は除く。
	34. 第2段落	なお、蒸留操作は、1992 年に第 1 版として発行された ISO 10359-1、イオン電極法は、1994 年に第 1 版として発行された ISO 10359-2…との整合を図ったものである。	なお、蒸留操作は、1994 年に第 1 版として発行された ISO 10359-2、イオン電極法は、1992 年に第 1 版として発行された ISO 10359-1…との整合を図ったものである。
	38.1.1.2 c) 3)	蒸留フラスコ 1 000 mL に 2) と同量の試料をとり…入れる。	蒸留フラスコ 1 000 mL に 1) と同量の試料をとり…入れる。
	38.4	38.1 (ただし、備考 10. は除く。) の前処理で得られた…する。	38.1 (ただし、備考 11. は除く。) の前処理で得られた…する。
	38.4 備考 14.	38.1 (ただし、備考 10. は除く。) の前処理で得られた…する。	38.1 (ただし、備考 11. は除く。) の前処理で得られた…する。
	38.5 第2段落	試験操作などは、JIS K 0170-9 (シアン化物) による。ただし、7.3.5 [蒸留 (pH3.8) -4-ピリジンカルボン酸・ジメチルバルビツール酸発色 CFA 法] 及び 7.3.6 [ガス拡散 (pH3.8) -4-ピリジンカルボン酸・ジメチルバルビツール酸発色 CFA 法] の方法は除く。	試験操作などは、JIS K 0170-9 の 6.3.2 (4-ピリジンカルボン酸・ピラゾロン発色 FIA 法)、6.3.4 (4-ピリジンカルボン酸・ピラゾロン発色 CFA 法)、7.3.2 (4-ピリジンカルボン酸・ピラゾロン発色 FIA 法) 又は 7.3.4 (4-ピリジンカルボン酸・ピラゾロン発色 CFA 法) による。
	45.6	試料中の窒素化合物の酸化分解、その結果生じる硝酸イオンの定量を 45.2 又は 45.3 と同様な…する。	試料中の窒素化合物の酸化分解、その結果生じる硝酸イオンの定量を 45.2 又は 45.4 と同様な…する。
	46.1.1 c) 1.1)	試料の適量 (PO ₄ ³⁻ として 2.5~75 µg を含む。) をメスシリンダー (有栓形) 25 mL にとる。	試料の適量 (PO ₄ ³⁻ として 2.5~75 µg を含む。) をメスシリンダー (有栓形) 25 mL にとり、水を標線まで加える。
	47. 備考 5. 2)	この溶液について c) 1) の操作を行ってほう素 [249.773 (I) nm] 及びイットリウム [464.370 (I) nm] の発光強度を測定し…求める(*)。	この溶液について c) 1) の操作を行ってほう素 [249.773 (I) nm] 及びイットリウム [371.029 (II) nm] の発光強度を測定し…求める(*)。
	47. 備考 5. 注(*)	表 52.1 の注参照。I は中性線を示す。	表 52.1 の注参照。I は中性線、II はイオン線を示す。ほう素の場合、内標準線として適切な中性線がないため、イオン線を用いる。
	48.2 b) 1)	測定対象元素用の光源を備え、かつ、バックグラウンド補正が可能なもの。	測定対象元素用の光源を備えたもの。

区分	位置	誤	正
本体	65.2.7 備考 15.	分離カラムの性能として、クロム (VI) 及び 2,6-ピリジンジカルボン酸クロム (III) の分離度 (R) が 1.3 以上に分離できるものを用いる。分離度 (R) は、35. の備考 7.の式によって求める。分離カラムの性能は、定期的に確認するとよい。	分離カラムの性能として、クロム (VI) 及び 2,6-ピリジンジカルボン酸クロム (III) の分離度 (R) が 1.3 以上に分離できるものを用いる。分離度 (R) は、35. の備考 7.の式によって求める。分離カラムの性能は、定期的に確認するとよい。 溶離液の例としては、2,6-ピリジンジカルボン酸を含む中性の水溶液、例えば、a) 11) の 2,6-ピリジンジカルボン酸溶液 100 mL によう化ナトリウム 1.5 g を加えて溶かした後、水を加えて 1 000 mL としたものが挙げられる。

令和元年 12 月 15 日作成

目 次

	ページ
追補 1 の序文	1
2. 共通事項	1
7. 温度	1
12. pH	2
13. 電気伝導率	2
28.1 フェノール類	2
31. 農薬	9
32. 溶存酸素	9
33. 残留塩素	9
34. ふっ素化合物	18
35. 塩化物イオン (Cl ⁻)	25
38. シアン化合物	26
42. アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺)	36
43. 亜硝酸イオン (NO ₂ ⁻) 及び硝酸イオン (NO ₃ ⁻)	47
44. 有機体窒素	48
45. 全窒素	48
46. りん化合物及び全りん	57
47. ほう素 (B)	68
48. ナトリウム (Na)	69
49. カリウム (K)	74
50. カルシウム (Ca)	76
51. マグネシウム (Mg)	82
52. 銅 (Cu)	84
53. 亜鉛 (Zn)	93
54. 鉛 (Pb)	94
55. カドミウム (Cd)	94
56. マンガン (Mn)	95
57. 鉄 (Fe)	95
58. アルミニウム (Al)	95
59. ニッケル (Ni)	96
60. コバルト (Co)	96
61. ひ素 (As)	97
62. アンチモン (Sb)	97
63. すず (Sn)	97
64. ビスマス (Bi)	98

	ページ
65. クロム (Cr)	98
66. 水銀 (Hg)	102
67. セレン (Se)	108
68. モリブデン (Mo)	108
69. タングステン (W)	109
70. バナジウム (V)	109
73. ウラン (U)	109
74. ベリリウム (Be)	110
附属書 1 (参考) 補足	110
附属書 2 (参考) JIS と対応する国際規格との対比表	117
解 説	125